

## JSA 若手「夏の学校」2012 in 岡山

### ～東日本大震災後の私たちの学問と社会運動～

JSA 若手「夏の学校」2012 in 岡山の 2nd Circular をお届けします。

いよいよ大飯原発が再稼働されてしまいました。福島第一原発事故の原因究明は未だ不十分であり、政府の再稼働ありきの決定は決して許されるものではありません。国会事故調査委員会においても、津波だけでなく地震による事故の原因が指摘されたにも関わらず、それに見合った十分な安全対策は未だとられないままです。57 日という「原発ゼロ」の期間が、わずかとはいえ作られたように、一度は脱原発をうながす政治の流れが作り出されたかのように見えました。しかしその流れは再び逆行の道に進んでいるようです。一方原発に対する人びとの切実な不安は、そのような逆行政治に対して空前規模の抗議の声を生み出しつつあります。大飯原発再稼働反対を求める 6 月 29 日の官邸前行動は、15 万人規模との参加があったといわれており、誰ともなしに「紫陽花（あじさい）革命」と称され始めました。このような安保闘争以来ともいわれる大きな民衆運動のうねりに対して、院生・若手研究者はどのように向きあえばいいのかという課題を、私たち一人一人に突きつけています。

今回の夏の学校では、日本科学者会議第19回総合学術研究集会（19総学）と併催することで、若手・シニアが協力して、この問題をとともに考える機会をもつことにしました。さらに若手独自の企画として、すでに関東・関西・中部などの各地で取り組まれている具体的な取り組みを紹介しながら、互いの悩みや問題意識を交流できればと考えています。また例年開催されている各支部の活動交流会や、研究交流会なども予定しています。

私たち若い学徒1人1人ができることはわずかですが、今は世代や学問分野を越えて、力と知恵をあわせるときです。JSA若手「夏の学校」2012が大きく成功するよう、各位の積極的なご参加を呼びかけます。

JSA「夏の学校」2012実行委員会

#### 1. 概要

日時 2012年9月14日（金）～16日（日）

開催地 岡山大学津島キャンパス一般教育棟（〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1）

宿泊先 ピュアリティまきび（〒700-0907 岡山市北区下石井 2-6-41）

参加費 1万2千円（予定）

※希望者には、JSA 全国より参加費の助成が予定されています。

（隣県 [広島・兵庫] は助成なし、それに準ずる県 [大阪] は 3,000 円、京都一愛知・山口は 5,000 円、静岡一関東・九州は 10,000 円、東北以遠・沖縄は 20,000 円）

その他の場合、相談に応じますので、希望者は「夏の学校」実行委員会までお問い合わせください。

## 2. タイムスケジュール

	午前	午後	夜
9/14 (金)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基調講演会</li> <li>・ 特別講演会</li> <li>・ 開校式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若手活動交流会</li> <li>・ 懇親会</li> </ul>
9/15 (土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マスターズレクチャー</li> <li>・ 分科会 I (自由選択)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヤングサイエンティストレクチャー</li> <li>・ 分科会 II (若手企画)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 懇親会</li> </ul>
9/16 (日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分科会 III (自由選択)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究交流企画</li> <li>・ 閉校式</li> </ul>	

## 3. 企画要旨

### 9月14日 (金)

#### 【基調講演会・特別講演会】

「持続可能な社会への変革をともに」をテーマとする 19 総学の全体講演会。

基調講演 池内了氏：持続可能な社会への変革をともに

特別講演① 安齋育郎氏：原発破局への道～翼賛体制を構成した 7 つの要因と変革への道～

特別講演② 室崎益輝氏：安全・安心な社会の構築のために～防災に何が必要か～

#### 【若手活動交流会】

本企画では、JSAの各支部から若手・院生についての活動報告をしてもらう。東京、名古屋、関西の3地域を中心に、各支部での若手JSA会員の活動を報告してもらい、その後に討論や意見交換を行う。今年度のテーマとしては、JSA会員同士が各支部の活動を知ることとそのアイデアを共有すること、またJSAを知らない会員に向けてどんなアピールができるかということ、またJSAの若手のあいだでどんなネットワークができるかの3点を考えている。

### 9月15日 (土)

#### 【マスターズレクチャー】

これまで日本科学者会議(JSA)の活動を中心となり担ってきて頂いた方々の活動経験を、現役世代、特に若い世代にメッセージとして伝えて頂く。JSAとの関わり、活動の思い出、今後のJSAや現役・若手・院生会員への期待などを、お話し頂く予定である。

①川崎健氏：JSAと私の研究-半世紀を振り返って- ②北村実氏：JSAは学問の伴侶

③小森田精子：JSA会員の協力で作り上げた講義 ④本間慎氏：JSAに育てられて

【分科会 I (自由選択)】

S 特別セッション、L 特別分科会、A 憲法・平和・思想、C 公害・環境・エネルギー・災害問題、D 科学・技術・教育・社会をテーマに設置された 19 総学の分科会。

S 東日本大震災—復旧・復興への低減 L-1 古代吉備の環境と歴史

L-2 「国連 ESD の 10 年最終年會合」にむけて A-1 平和・安全保障問題

B-1 人間存在と「パーソン論」 C-3 予防原則・リスク論を考える

C-5 自然エネルギーの普及に向けた戦略 D-1 宇宙、物質、生命、人間と社会の動的構造と発展

D-2 女性研究者・技術者のこれまでと今、そしてこれから D-3 科学・技術の現状批判

D-7 今、改めて科学・技術教育を考える D-9-1 大学・試験研究機関の現状と課題

【ヤングサイエンティストレクチャー】

各地で活躍中の JSA 若手会員が行っている自らの専門研究を一般向けに分かりやすく紹介して頂く。

【分科会 II 「3.11後の社会運動と大学院生」】

昨年の東日本大震災以降の脱原発運動などに見られるように、社会運動において幾つかの変化が現れてきた。しかし、運動の在り方の変容は十分に捉え切れていないように感じられる。とくに、運動の主体としての若者の意識や社会との関わり方についての変化が考察されるべきだろう。今回は 19 総学の分科会として多くの若手・院生の参加を募り、上述の課題を検討することを通じて、若い参加者が科学者として今後社会と関わっていくことの意義、そこにおける課題を考え語りあえる機会としたい。すでに関東・関西・中部などの各地で取り組まれている具体的な取り組みを紹介しながら、互いの悩みや問題意識なども交流できればと考えている。

・報告①…「動き出した若者たち～3.11後の世界でみえてきたもの～」(愛知)

愛知の脱原発運動を主導していった一女子高生の行動をきっかけに、東海地区の諸グループ・個人がつながりはじめ、脱原発運動のネットワークが組織されるようになっていった過程を紹介。若者が運動を創り出すために必要な条件についても考察。

1. はじめに／2. 3.11と私／3. 動き出した若者たち／4. 出会い、つながり始める人びと／5. 運動を創り出すということ／6. 社会を変えるのは誰か

・報告②…「3.11後の学生・院生の社会運動～「原発ゼロアクション in KYOTO」を事例に～」(京都)

京都で行われていた「原発ゼロアクション in KYOTO」を事例に、3.11後にみられる学生・院生の社会運動の変化について紹介。若者たちがデモという社会への参加行動を「発見」していく過程に目を向ける。

はじめに／1. 脱原発の取り組み～4.10～5.11～／2. 脱原発の取り組み～9.11から3.10～／3. 再稼働反対の取り組み～4.8から現在～／おわりに

・2報告に対するコメント(東京)

上記2報告に対するコメントと、参加者15万人ともいわれる再稼働反対を求める官邸前行動など、3.11 後に取り組みられた東京の諸運動の様子を紹介。

9月16日 (日)

**【分科会Ⅲ (自由選択)】**

分科会 I と同様。

A-2 生命倫理の今日的課題 A-3 21 世紀社会像の展開

A-5 絹布快晴構想の憲法学的・政治学的検討 B-2 地域社会・経済と地方自治の今日的課題と創造的展望

B-4 放射線の人体影響 B-5 資本主義と医学・医療 C-4 大震災に学ぶこれからの防災の課題

C-2 瀬戸内の地域環境再生 D-6 真の科学・技術、学術政策を求めて

**【研究交流企画～修論・博論・投稿論文執筆記～】**

JSA の魅力は狭い専門を超えた学際的な関心、問題意識に触れることができるという点である。また大学、研究科によっては自らの近い将来モデルとなるような先輩、同期に恵まれることは偶然であることから、論文執筆にあたって不安や悩みを抱えている会員もいることと思われる。本企画では分野を問わずに昨年度修士論文、博士論文、投稿論文執筆者にそれぞれの研究報告、また論文執筆を通じて得られた経験について報告していただく。これを受け、各々の研究生活上での悩みや問題意識などの交流を行いたい。専門分野を超えた知的刺激をうけ、また論文を今後執筆するうえで学ぶべき点を共有することが本企画の趣旨である。

**4. 参加申込方法**

下記の必要事項①～⑥を記入の上、8月24日 (金)までに下記アドレス宛に、Eメールでお申し込みください。

**【必要事項】**

①氏名 (フリガナ)

②所属・学年

③専門・研究分野

④連絡先 (TEL および E-Mail アドレス)

⑤参加期間 (全日 or 15 日昼のみ etc)

⑥その他 (実行委員会に対する希望などがありましたら、ご記入ください)

**【申込先】** 日本科学者会議 (JSA) 全国事務局

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9F

Tel : 03-3812-1472 <http://www.jsa.gr.jp/>

Mail : [jsa\\_summer\\_school2012 あつと yahoo.co.jp](mailto:jsa_summer_school2012@yaho.co.jp) (JSA 「夏の学校」2012 実行委員会)